

池田市埋蔵文化財発掘調査概報

2003年度

2004年3月

池田市教育委員会

序 文

池田市は大阪府の北西部に位置し、五月山の緑、猪名川の水の流れに囲まれています。このような自然の豊かな環境の中、人々が先史の時代から営み始めています。

近年はこの地も、陸・空の交通の要衝として、また、大阪のベットタウンとして開発が進み、大きく発展した。

しかしながら、このような開発・発展とは裏腹に、我々の祖先が伝え残してきた文化遺産や自然が破壊され、かっての面影がしのぶことができないほど様がわりしてしまったことも事実です。祖先から受け継がれてきた文化遺産を現代生活に反映しつつ、また、後世に伝えて行くことが我々の義務と考えております。

この報告書は、上述した状況の中、危機に面している埋蔵文化財について、国の補助を受けて実施した発掘調査の概要報告であります。本書が文化財の理解に通じれば幸いと存じます。

なお、調査の実施にあたっては多くの御指示、御助言をいただいた諸先生並びに関係機関をはじめ、土地所有者、近隣住民の方々には文化財保護に対して、格別の御理解と御協力をいただき、心より感謝と敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

平成16年3月

池田市教育委員会
教育長 長江 雄之介

例　　言

1. 本書は、池田市教育委員会が平成15年度国庫補助事業（総額1,000,000円、国庫50%として実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は、池田市教育委員会教育部生涯学習推進室社会教育課文化財担当が実施し、中西正和が現地を担当した。
3. 本書の執筆・編集は中西が行なった。また、本書の製図、遺物実測にあたっては野村大作・辻武司の協力を得た。
4. 本書で使用する土層の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所 色票監修）による。
5. 調査の進行にあたっては、施主並びに近隣住民の方々にご理解、ご協力をいただいたことに対し、深く感謝の意を表する次第であります。

目 次

I	歴史的環境	1
II	禪城寺遺跡	5
III	伊居太神社参道遺跡	6
IV	宮の前遺跡	7
	宮の前遺跡第37次調査	8
	宮の前遺跡第38次調査	9
	宮の前遺跡第39次調査	9
V	池田城跡	11
	池田城跡第45次調査	12
	池田城跡第46次調査	12
	池田城跡第48次調査	13
	池田城跡第49次調査	13

図 版

- 図版 1 (1) 禪城寺遺跡第4次調査 トレンチ全景（南から）
(2) 伊居太神社参道遺跡第1次調査 トレンチ全景（北から）
- 図版 2 (1) 宮の前遺跡第36次調査 トレンチ全景（東から）
(2) 宮の前遺跡第37次調査 第3トレンチ全景（南から）
- 図版 3 (1) 宮の前遺跡第38次調査 トレンチ全景（南西から）
(2) 宮の前遺跡第38次調査 壺穴住居（南から）
- 図版 4 (1) 池田城跡第45次調査 トレンチ全景（南から）
(2) 池田城跡第46次調査 トレンチ全景（南から）
- 図版 5 (1) 池田城跡第48次調査 トレンチ全景（西から）
(2) 池田城跡第49次調査 トレンチ全景（北から）

挿図目次

I 歴史的環境

第1図 煙出土有舌尖頭器	1
第2図 主要遺跡分布図	2
第3図 池田城跡下層竪穴住居	3
第4図 姫三堂古墳出土画文帶神獸鏡	3

II 押城寺遺跡

第5図 調査地位置図	5
第6図 トレンチ位置図	5
第7図 トレンチ断面図	5

III 伊居太神社参道遺跡

第8図 調査地位置図	6
第9図 トレンチ位置図	6
第10図 トレンチ断面図	6

IV 宮の前遺跡

第11図 調査地位置図	7
第12図 第37次調査地トレンチ位置図	8
第13図 トレンチ平・断面図	8
第14図 第38次調査地トレンチ位置図	9
第15図 第3トレンチ平・断面図	9
第16図 第39次調査地トレンチ位置図	9
第17図 トレンチ平・断面図	9
第18図 出土遺物	10

V 池田城跡

第19図 主郭内建物跡	11
第20図 調査地位置図	12
第21図 トレンチ位置図	12
第22図 第45次調査地トレンチ断面図	12
第23図 第46次調査地トレンチ断面図	13
第24図 第48次調査地トレンチ断面図	13
第25図 第49次調査地トレンチ位置図	13
第26図 第49次調査地トレンチ断面図	14

I 歴史的環境

池田市は大阪府の西北部に位置し、東西4.1km、南北9.2kmの南北に細長い市域で、西摂平野の北東部、丹波山地に源を発する猪名川が北摂山地を分断して平野部に出たところにあり、古くから谷口集落として、大阪と丹波、能勢地方の物資集散、文化交流に中心的な役割を果してきた。

池田市の地形は、市域のほぼ中央に五月山が占め、それより北には、北摂山地および余野川によって形成された沖積平野が広がっている。また、五月山より南には、標高50mの緩やかな五月丘陵が広がり、更に南側には、猪名川によって形成された広大な沖積平野が広がっている。このような自然環境の中、人々は旧石器時代から生活を営んでいたことが近年の発掘調査で明らかにされている。

旧石器時代

現在のところ旧石器時代についての遺跡は少ない。旧石器が出土した遺跡としては、伊居太神社参道遺跡、宮の前遺跡（螢池北遺跡）、宮の前西遺跡、禪城寺遺跡が挙げられるが、遺構については未確認である。

伊居太神社参道遺跡は標高約50mの五月山丘陵の西端部に位置し、明治年間から石器が採集され、その中に少量であるがナイフ形石器等の旧石器時代に比定されるものが認められている。宮の前遺跡では、昭和61年度の大坂府教育委員会による発掘調査で国府型ナイフ形石器・平成元・7年度の豊中市教育委員会による発掘調査で螢池北遺跡でナイフ形石器が出土している。また、宮の前遺跡に隣接する宮の前西遺跡からは翼状剥片1点が採取されている。新たな遺跡として、平成9年度からの大阪府教育委員会による都市計画道路池田・神田線拡幅工事に伴う禪城寺・宇保・神田北遺跡の調査でサヌカイト剥片1点出土している。

縄文時代

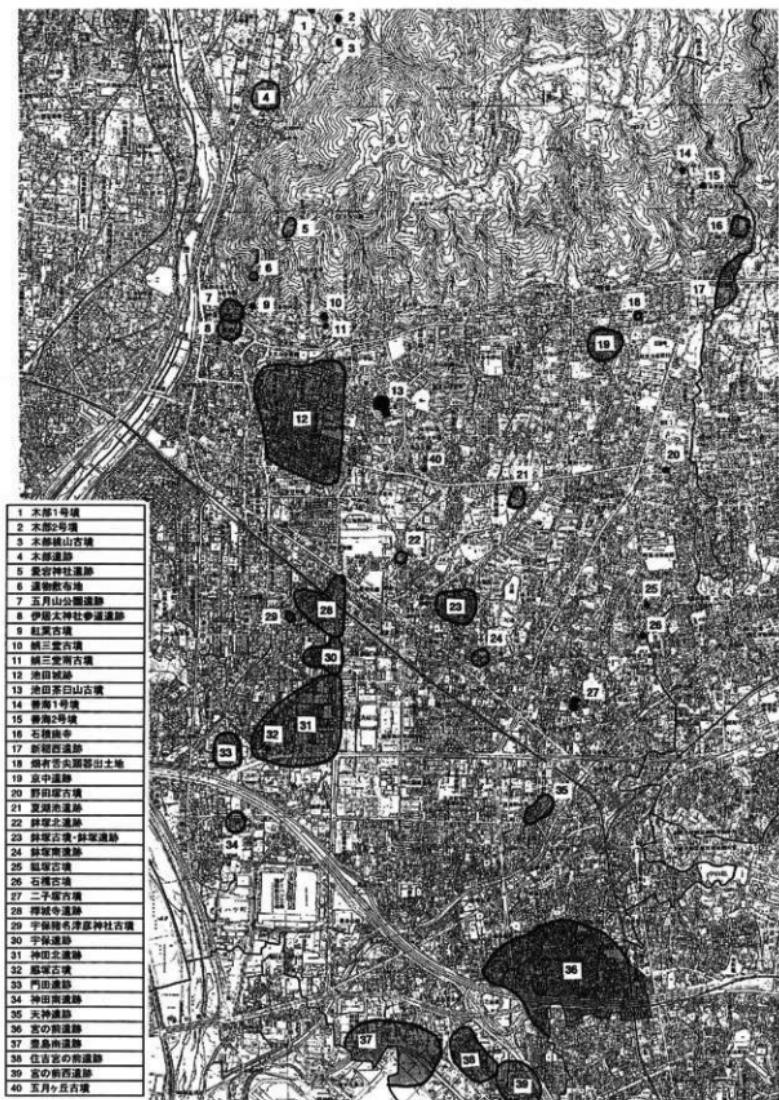
市域北部の遺跡で縄文時代の遺物が確認されている遺跡は、古江遺跡から石匙1点採取されているのみである。

伊居太神社参道遺跡で縄文時代のサヌカイト製の石鎌・京中遺跡でサヌカイト製の石鎌・石匕が採取され、近隣の畠ではサヌカイト製の尖頭器が採集されている。また、近年の発掘調査で、池田城跡下層からサヌカイト製の石鎌や晚期の生駒西麓産突帯文土器が出土し、土坑などの遺構も検出されている。

一方、南部の台地に位置する神田北遺跡では石鎌・石匙、宮の前遺跡では石棒が採取され、また、豊島南遺跡で後期か



第1図 畠出土有舌尖頭器



第2図 主要遺跡分布図

ら晩期の土器が出土している。しかし、土器は少量で、遺構は検出されておらず、縄文時代の集落の規模・性格等は明らかではない。

弥生時代

弥生時代前期の遺跡としては、五月山北麓に位置する木部遺跡があげられる。木部遺跡は工事中に発見された遺跡で本格的な調査がされていないため、詳細は不明である。しかし、弥生時代前期から後期の土器が出土しており、池田市内では唯一弥生時代全般を通じて営まれた遺跡である。

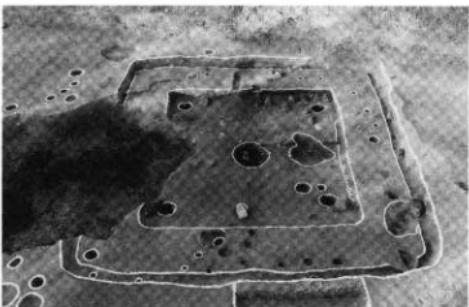
弥生時代中期においては、池田市南部の台地上で遺跡が現れるようになる。宮の前遺跡は昭和43年・44年に中国縱貫自動車道建設にともない、大規模な発掘調査がなされ、方形周溝墓、竪穴住居、土塙墓等の遺構が多数検出されている。また、宮の前遺跡から西へ約1kmに位置する豊島南遺跡では方形周溝墓が検出され、宮の前遺跡との関連が注目される。

後期に入ると、宮の前遺跡、豊島南遺跡は消滅し、かわって、五月丘陵で池田城跡下層、京中遺跡、五月山山頂で愛宕神社遺跡が現れる。池田城跡下層では平成3年の調査において、ベット状遺構を伴う竪穴住居が検出されている。また、台地では神田北遺跡においては、竪穴住居、土坑が検出されている。弥生時代後期になると小規模の遺跡が増加する。

古墳時代

池田市内に残る古墳時代前期に築造された古墳は、池田茶臼山古墳と娘三堂古墳である。池田茶臼山古墳は五月山より派生する丘陵の鞍部に築造された全長62mの前方後円墳で、竪穴式石室、埴輪円筒棺、葺石、埴輪列が検出されている。一方、娘三堂古墳は池田茶臼山古墳より北西へ約500m離れた五月山中腹に位置する径27mの円墳で、明治時代に石室内から画文蒂神獸鏡などが出土している。平成元年度の調査の結果、同一の墓壙内に竪穴式石室と粘土槅が存在することが確認されている。

古墳時代中期では小規模な低墳丘をもつ古墳が宮の前遺跡、豊島南遺跡で見られるようにな



第3図 池田城跡下層竪穴住居



第4図 娘三堂古墳出土画文蒂神獸鏡

る。

古墳時代後期では善海1・2号墳、木部1・2号墳、木部桃山古墳、須恵質の陶棺を持つ五月ヶ丘古墳のような単独、あるいは2~3基を一単位とする小規模な古墳が現れるが、群集墳は形成されない。しかし、一方で、巨大な横穴式石室を有する鉢塚古墳や前方後円墳の二子塚古墳が築造されており、この地域の古墳の中でも、異質の存在である。

古墳時代の集落遺跡としては、古江遺跡、木部遺跡等で須恵器や土師器が出土しているが、これらの遺跡では、造構の詳細は判然としない。豊島南遺跡では古墳時代前期の焼失住居が検出され、現在のところ、市内において古墳時代前期の集落遺構が確認された唯一の遺跡である。中期に入ると、少しではあるが検出遺構も増す。宮の前遺跡では竪穴住居が検出されており、また、豊島南遺跡では竪穴住居、溝が検出されている。

歴史時代

集落遺跡としては、宮の前遺跡で奈良時代の掘立柱建物・溝が検出されおり、豊島南遺跡、神田北遺跡においても奈良時代の掘立柱建物等が検出されている。寺院跡としては白鳳・奈良時代の瓦が採取された石積廃寺があるが、未調査のため詳細は明らかではない。中世では神田北遺跡で掘立柱建物が検出されており、土師氏によって開発が推進されたとされる興庭莊に関わるものとも考えられる。

室町時代から戦国時代にかけて、国人の池田氏が豊島郡一帯の政治、経済を掌握するようになる。その池田氏の出自の詳細は明らかではないが、応仁の乱ごろから摂津守護細川氏の被官として勢力を拡大させていくが、永禄11年（1568）織田信長の摂津入国により、池田氏は降伏を余儀なくされ、さらに、元家臣荒木村重によって、その地位を奪われることになる。池田氏の居館であった池田城は、五月山から南方へ張り出した台地上の南麓に位置する。昭和43・44年に主郭部の一部が調査された際、礎石を伴う建物跡や枯山水様の庭園跡が検出され、また、平成元年度から平成4年度の調査では虎口、建物跡、小規模な石垣、内堀、埠列建物跡等を検出している。

参考文献

- 【原始・古代の池田】池田市立池田中学校地歴部 1985年
- 【新修 池田市史】第1巻 池田市 1997年
- 【福城寺・宇保・神田北遺跡】大阪府教育委員会 2002年

II 檀城寺遺跡

檀城寺遺跡は、宇保町・城南2丁目一帯にひろがる弥生時代～中世にかけての複合遺跡で、昭和62年にマンション建設途中に中世の瓦が発見されたことにより遺跡の存在が明らかになった。その後の発掘調査で、弥生後期の土器のほか、飛鳥期の竪穴住居、奈良期の掘立柱建物を検出している。

また、平成9年度からの大阪府教育委員会による都市計画道路池田・神田線拡幅工事に伴う檀城寺・宇保・神田北遺跡の調査でナイフ形石器が出土している。

調査の概要

調査は池田市城南3丁目27番2において、個人住宅建築工事に先立ち実施した。今回の調査地は遺跡範囲の東端に位置し、土層確認等を主眼に置き発掘調査を実施した。調査面積は4m²である。

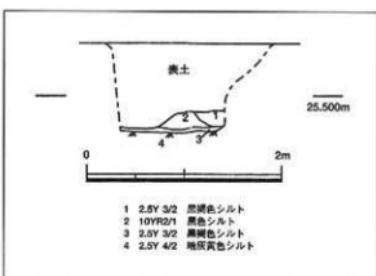
基本層序は3層で、第1層は表土及び盛土、解体残土を多く含む。第2層は黒色シルト、第3層は暗灰黄色シルトの地山である。調査の結果、第2層から遺物は検出されず。また、第2層上、地山上から遺構の検出はできなかった。



第5図 調査位置図



第6図 トレンチ位置図



第7図 トレンチ断面図

III 伊居太神社参道遺跡

伊居太神社参道遺跡は伊居太神社参道東側に広がる遺跡で、五月山丘陵の西端部標高約50mに位置している。地元の郷土史家により石器が採集され、その中に少量であるが旧石器時代に比定される小型のナイフ形石器・搔器・削器等が認められている。また、その他の石器には縄文時代草創期と考えられる尖頭器や石鏃・石匙などの遺物も含まれている。

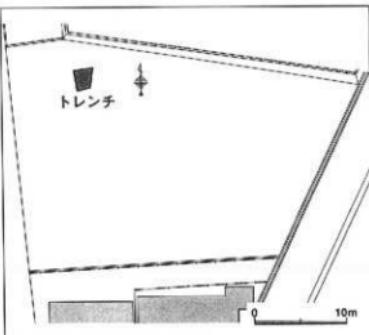
当遺跡より北に位置する五月山公園遺跡からは弥生時代中・後期の土器が見つかっており、弥生時代以降の遺物等が確認される可能性もある。

参考文献

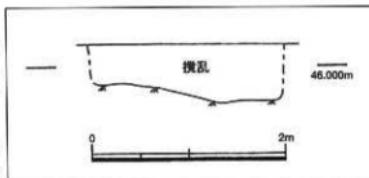
『新修 池田市史』 第1巻 池田市 1997年



第8図 調査地位置図



第9図 トレンチ位置



第10図 トレンチ西面断面図

調査の概要

調査は綾羽2丁目111番において、建売住宅建築工事に先立ち実施した。今回の調査地は丘陵の南端部に位置する。伊居太神社参道遺跡は旧石器から縄文時代にかけての石器が表土採取されるのみで、造構等の状況等は不明である。そのため、小規模のトレンチを設定し、土層確認等を主眼に置き発掘調査を実施した。調査面積は4m²である。

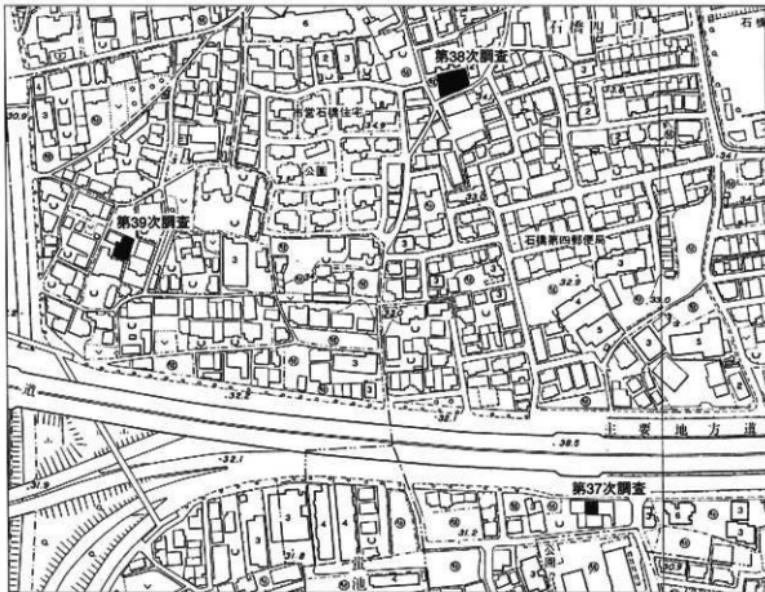
基本層序は解体残土を含む盛土とその下の地山と考えられる黄色礫層のみで、後世の削平が著しい。遺物や造構等は検出できなかった。

IV 宮の前遺跡

はじめに

宮の前遺跡は池田市石橋4丁目、住吉1・2丁目、豊中市螢池北町に広がる旧石器時代から中世に至る複合遺跡である。その場所は、待兼山の丘陵より西方へ発達した標高約30m前後の洪積台地に立地している。この台地は、猪名川によって形成された沖積平野とは約10mの比高差を有する。周辺の遺跡としては、南方に弥生時代中期の方形周溝墓等が検出された豊島南遺跡、弥生土器、須恵器が採取された住吉宮の前遺跡が位置し、西方に高地性集落と考えられる待兼山遺跡、須恵器、瓦を生産した桜井谷古窯跡群が広がり、また、南方に5世紀の掘立柱建物が検出された螢池東遺跡¹⁾、国府型ナイフ形石器が出土した螢池西遺跡²⁾等が挙げられる。

当遺跡は、昭和の初頭に地元の人々により石器や土器などが採取され、遺跡の存在が知られるようになったが、本格的な調査が行われておらず、遺跡の性格等は不明であった。しかし、昭和43、44年の中国縦貫自動車道建設に伴い発掘調査が実施され³⁾、その結果、弥生時代中期の方形周溝墓、竪穴住居、土壙墓等の他、古墳時代の竪穴住居、古墳が検出された。特に、当時検出例が少なかった方形周溝墓と竪穴住居が同一調査地内で検出されたことから、墓域と住居域が同時に把握できる貴重な例として注目を浴びることとなった。また、奈良時代の掘立柱



第11図 調査地位置図

建物、井戸、平安時代の掘立柱建物等も確認され、弥生時代から中世に及ぶ複合遺跡として認識されるようになった。

その後、大阪府教育委員会、豊中市教育委員会、池田市教育委員会によるマンション等の開発に伴う事前調査が進み、遺跡の範囲が東西700m、南北900mであることが判明している。また、昭和61年度の大坂府教育委員会による調査、平成元年度の豊中市教育委員会による調査で、国府型ナイフ形石器が出土し⁴⁾、当遺跡が旧石器時代までさかのばることが判明している。

註(1)〔対〕大阪文化財センター「螢池東遺跡現地説明会資料」

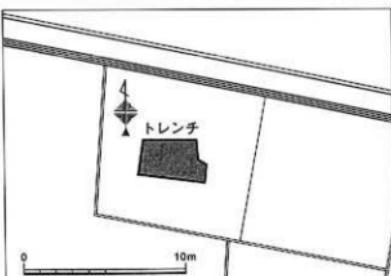
1992年

- (2) 豊中市教育委員会「浜津豊中 大塚古墳」1987年
(3) 宮之前遺跡調査会「宮之前遺跡発掘調査概報」1970年
(4) 豊中市教育委員会「螢池北遺跡現地説明会資料」

1989年

参考文献

- 樋高と明編「原始・古代の池田」池田市立池田中学校地歴部
1985年
富田好久「考古学上に現れた池田」『新版池田市史』県説編
1971年



第12図 第37次調査地トレンチ位置図

宮の前遺跡第37次調査

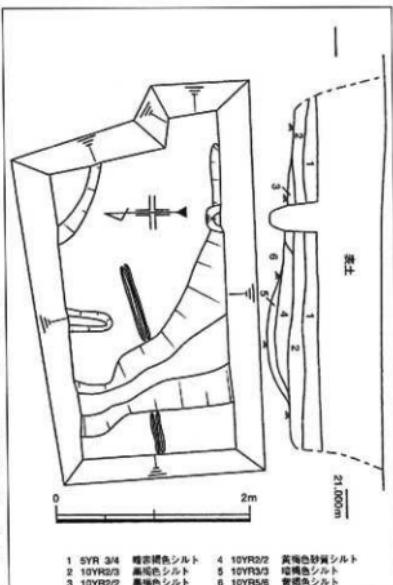
調査地は池田市石橋4丁目64-11に位置し、個人住宅新築に伴い調査を実施した。

本調査地の東に隣接する宮の前遺跡第37次調査では柱穴等を検出しているため、敷地中央にトレンチを設定し、調査を実施した。調査面積は8m²である。

調査の概要

層序は4層からなる。第1層は表土および盛土、第2層は暗赤色、第3層は遺物包含層の黒褐色シルト、第4層は黄褐色シルトの地山である。

検出遺構は土坑・溝等である。溝は逆「L」字形を呈し、トレンチ南壁あたりで終っているようであり、この溝は方形周溝墓の周溝の可能性がある。遺物は溝跡から出土したがすべて小片で、図化はできなかった。また、包含層から瓦器碗等の中世の遺物が出土した。



第13図 トレンチ平・断面図

宮の前遺跡第38次発掘調査

調査地は池田市石橋4丁目22-2に位置する。調査は共同住宅新築に伴う試掘調査として実施した。調査面積は3本のトレンチを合計して15m²である。

調査の概要

層序は3層からなる。第1層は表土および盛土、第2層は褐色シルト、第3層は明褐色粘質シルトの地山である。第2層は第1トレンチではみられず、第2トレンチの東側から確認でき、第3トレンチでは10cmほどの厚さである。

検出遺構は第1・2トレンチでは認められず、第3トレンチで落ち込みを確認した。

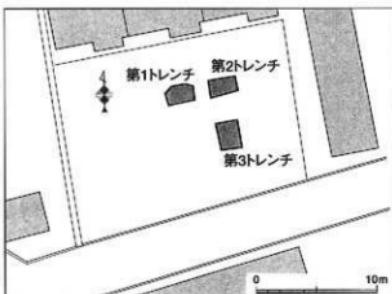
出土遺物はみられなかった。

宮の前遺跡第39次発掘調査

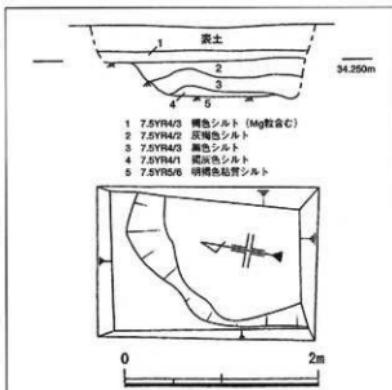
調査地は池田市住吉2丁目62に位置する。調査は個人住宅新築に伴い実施した。調査面積は10m²である。

調査の概要

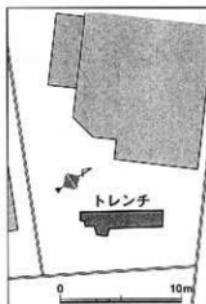
基本層序は3層からなる。第1層は表土および盛土、第2層は黒褐色粘質シルト、第3層は暗赤褐色粘質シルトの地山である。



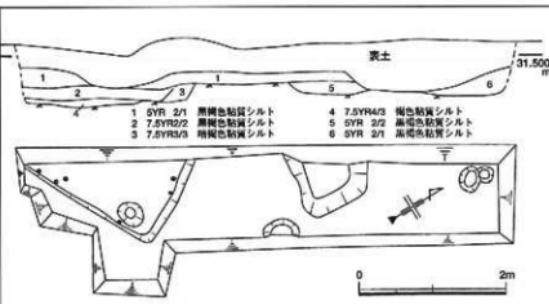
第14図 第38次調査地トレンチ位置図



第15図 第3トレンチ平・断面図



第16図 第39次調査地トレンチ位置図

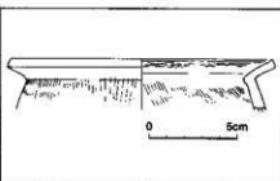


第17図 トレンチ平・断面図

検出遺構は、ピット・土坑・竪穴住居などで、ともに第3層の地山上で検出した。

竪穴住居は方形と思われ、現状の深さは約25cmを測る。壁溝は確認できなかったが、住居内壁面沿いに3cm前後の杭跡を検出した。住居に伴う柱穴は、調査面積が狭く、確認できなかった。竪穴住居埋土内から弥生時代中期の土器が出土した（第18図）。

今回の調査で、弥生時代中期の土器が出土する方形の竪穴住居を検出したが、竪穴住居の全体を確認したのでなく、出土遺物も少量であったため、弥生時代中期の方形竪穴住居と断定はできない。しかし、近隣の兵庫県加茂遺跡において弥生時代中期の方形竪穴住居が確認されており、方形竪穴住居の蓋然性は強い。



第18図 出土遺物

V 池田城跡

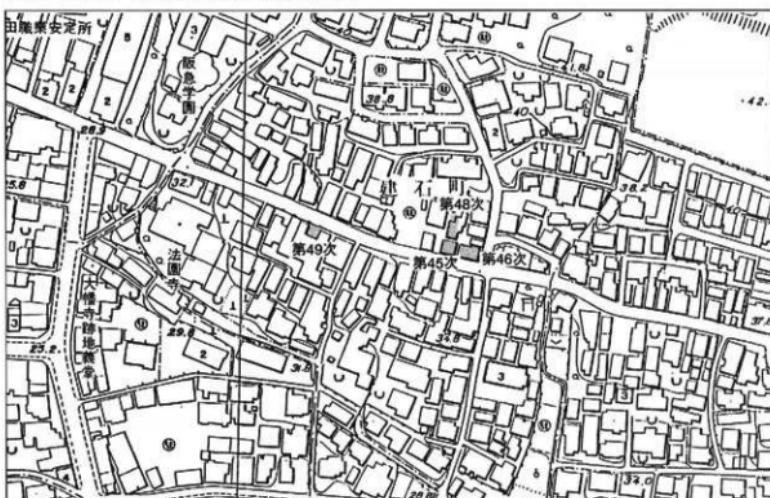
はじめに

池田城跡は、池田市の城山町・建石町一帯に位置し、戦国期を中心とする国人池田氏の居城跡で、五月山から張り出した標高50mを測る台地の西縁辺に立地している。その場所からは、眼下に旧池田の町を望むことができる。また、丹波山地から大阪湾に流れ込む猪名川、大阪と能勢地方を結ぶ街道を一望することもでき、そのことから、池田城は当時の交通の要衝に選ばれていたことが判る。

池田城を居城とした国人池田氏の出自についての詳細は明らかではないが、13世紀末頃の文献からその名が散見されるようになる。しかし、当時の池田氏の動向は不明な点が多い。15世紀中頃以降、摂津守護細川氏の被官として、幾度かの落城を経験しながらも、荘園経営や高利貸経営により勢力を伸ばし、その後、摂津の国人の中でも有力な地位を得るようになった。しかし、永禄11年（1568）織田信長による摂津入国に際し、降伏を余儀なくされ、信長の支配下となる。その後、元家臣であった荒木村重に



第19図 主郭内建物跡



第20図 調査地位置図

よって城を奪われ、そして、池田城は村重の有岡城入城に伴い、政治・経済支配の拠点としての役割を終えることとなった。

池田城跡の主郭部は、現在でも空堀が良好に残るもの、公園整備により、当時の面影はほとんど失われた。昭和43、44年に主郭部の一部で発掘調査が行われ、建物跡に伴う礎石、石組の溝、中世城郭では珍しい枯山水の庭園跡、落城に伴う焼土層等が検出された。また、平成元年～4年に実施した主郭部の発掘調査では、排水のための暗渠を埋設する虎口、礎石や一部瓦を伴う建物跡、石組の溝、小規模な石垣、主郭内に設けられた内堀、倉庫と考えられる埠列建物跡等を検出した。一方、大阪府教育委員会や池田市教育委員会による主郭周辺の発掘調査では、主郭部の南方約100mの位置で大手口が存在することや空堀が幾重にも巡らされていることが判明しており、少しずつであるが城の全容が解明している。

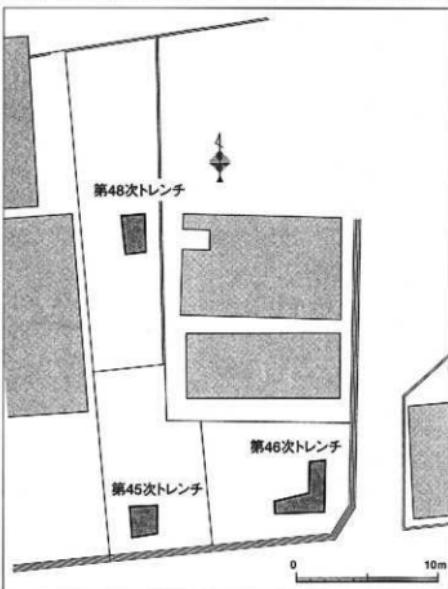
池田城築城以前の遺構・遺物についても明らかになりつつあり、昭和60年以降の大坂府教育委員会による調査では縄文時代晩期の土器、古墳時代後期の土坑、また、平成3年度の池田市教育委員会による第24次調査では、庄内期のベット状道構を伴う竪穴住居を検出している。

池田城跡第45次調査

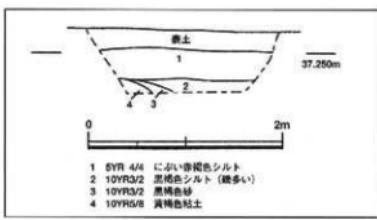
調査の概要

調査は池田市建石町3315-3の一部において、建売住宅建築に伴う試掘調査として実施した。調査地は池田城存続期において、街道が屈曲する角地にあたる。調査面積は4m²である。

基本層序は第1層表土、及び、盛土、第2層はにぶい赤褐色砂質土、第3層は黄褐色シルトで、地山までの検出には至らなかった。調査の結果、遺構、遺物は検出できなかった。第3層の黄褐色シルトをベースとして東への落ち込みがあるが性格等は不明である。周辺の状況から第3層は近世の整地層と考えられる。



第21図 トレーニング位置図



第22図 第45次調査 トレーニング北面断面図

池田城跡第46次調査

調査の概要

調査は池田市建石町3315-3の一部において、個人住宅建築に先立ち実施した。調査地は池田城跡第46次調査地の東に隣接し、旧能勢街道沿いに位置する。調査面積は10m²である。

基本層序は第1層表土、及び、盛土、第2層は黄褐色シルト、第3層は灰褐色シルトで地山の確認は至らなかった。

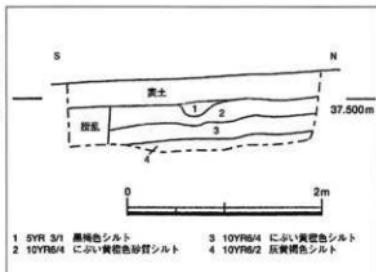
調査の結果、擾乱が多く、遺構、遺物の検出はできなかった。第2層の黄褐色シルトは、西側に隣接する池田城跡第45次調査で確認した近世の整地土と考える黄褐色シルトと同一と考えられる。

池田城跡第48次調査

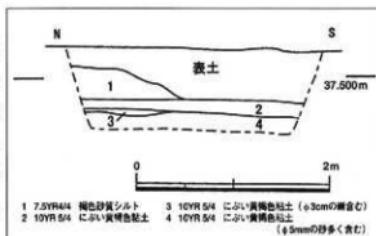
調査の概要

調査は池田市建石町3315-1の一部において、個人住宅建築に先立ち実施した。調査地は池田城跡第46次調査地の北に隣接する。調査面積は6m²である。

基本層序は第1層表土、及び、盛土、第2層はにぶい黄褐色粘土、第3層は砂を多く含むにぶい黄褐色粘土である。調査の結果、遺構、遺物の検出には至らなかったが、第2層のにぶい褐色粘土は、西側に隣接する池田城跡第45・46次調査で確認した近世の整地土と考える黄褐色シルトと同一と思われる。



第23図 第46次調査トレンチ北西面断面図

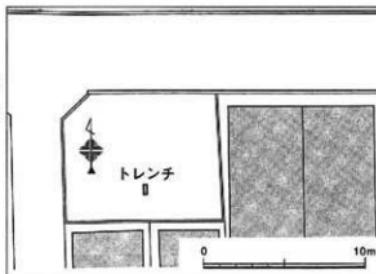


第24図 第48次調査トレンチ東面断面図

池田城跡第49次調査

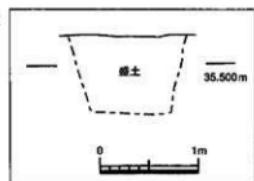
調査の概要

調査は池田市建石町22-11において、個人住宅建築に先立ち実施した。調査地の北側は旧能勢街道が位置する。調査面積は2m²である。



第25図 第49次調査トレンチ位置図

本調査地は1m以上の盛土が施されているようで、建築基礎の関係から地山面まで掘り下げることができず、遺構・遺物を確認することはできなかった。



第26図 第49次調査トレンチ西面断面図



1) 梓城寺遺跡第4次調査 トレンチ全景（南から）



2) 伊居太神社参道遺跡第1次調査 トレンチ全景（北から）



1) 宮の前遺跡第37次調査 トレンチ全景（東から）



2) 宮の前遺跡第38次調査 第3トレンチ全景（南から）



1) 宮の前遺跡第39次調査 トレンチ全景 (南西から)



2) 宮の前遺跡第39次調査 穫穴住居 (南から)



1) 池田城跡第45次調査 トレンチ全景（南から）



2) 池田城跡第46次調査 トレンチ全景（南から）



1) 池田城跡第48次調査 トレンチ全景（西から）



2) 池田城跡第49次調査 トレンチ全景（北から）



報告書抄録

ふりがな	いけだしまいぞうぶんかざいはくつちょうさがいほう							
書名	池田市埋蔵文化財発掘調査概報							
副書名	池田市文化財調査報告第30集							
卷次								
シリーズ名	池田市文化財調査報告							
シリーズ番号	30							
編著者名	中西 正和							
編集機関	池田市教育委員会							
所在地	〒563-8666 大阪府池田市城南1丁目1番1号 ☎072-752-1111							
発行年月日	2004年3月31日							
所取遺跡	所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
押城寺遺跡	城南3-27-2	272043	-	34度49分4秒	135度25分55秒	030512 ～ 030514	4m ²	個人住宅新築のための事前調査
伊居太神社参道遺跡	綾羽2-111-3	タ	-	34度49分44秒	135度25分33秒	030527 ～ 030529	4m ²	建売住宅新築のための試掘調査
宮の前遺跡第37次	石橋4-64-11	タ	-	34度47分59秒	135度26分40秒	030602 ～ 030612	8m ²	個人住宅新築のための事前調査
宮の前遺跡第38次	石橋4-22-2	タ	-	34度48分40秒	135度26分40秒	030714 ～ 030717	15m ²	共同住宅新築のための試掘調査
宮の前遺跡第39次	住吉2-62	タ	-	34度48分41秒	135度26分28秒	031215 ～ 031219	10m ²	個人住宅新築のための事前調査
池田城跡第45次	建石町3315-3	タ	-	34度49分27秒	135度25分47秒	030625 ～ 030702	4m ²	建売住宅新築のための試掘調査
池田城跡第46次	建石町3315-3の一部	タ	-	34度49分27秒	135度25分48秒	030729 ～ 030801	10m ²	個人住宅新築のための事前調査
池田城跡第48次	建石町3315-3の一部	タ	-	34度49分28秒	135度25分47秒	031008 ～ 031023	6m ²	個人住宅新築のための事前調査
池田城跡第49次	建石町3282-7	タ	-	34度49分30秒	135度25分46秒	040113 ～ 040115	2m ²	個人住宅新築のための事前調査
所取遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
押城寺遺跡第4次	集落跡	-	-	-				
伊居太神社参道遺跡	散布地	-	-	-				
宮の前遺跡第37次	集落跡	中世	ピット・溝	瓦器等				
宮の前遺跡第38次	集落跡	-	-	-				
宮の前遺跡第39次	集落跡	弥生・中世	堅穴住居	瓦器等				
池田城跡第45次	城館跡	-	-	-				
池田城跡第46次	城館跡	-	-	-				
池田城跡第48次	城館跡	-	-	-				
池田城跡第49次	城館跡	-	-	-				



池田市文化財調査報告第30集
池田市埋蔵文化財発掘調査概報

2003年度

2004年3月

発行 池田市教育委員会

池田市城南1丁目1番1号

編集 社会教育課 文化財担当

印刷 やまかつ株式会社